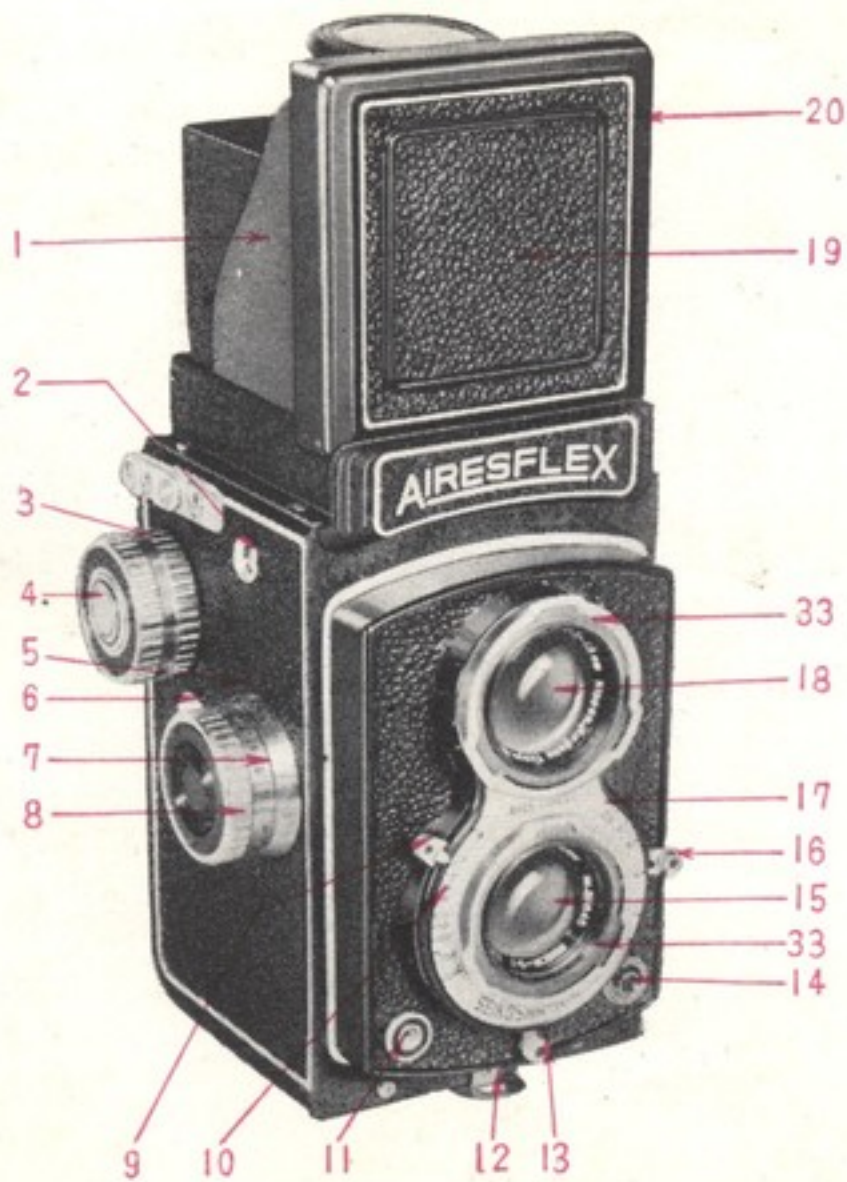




アイレス フレックス

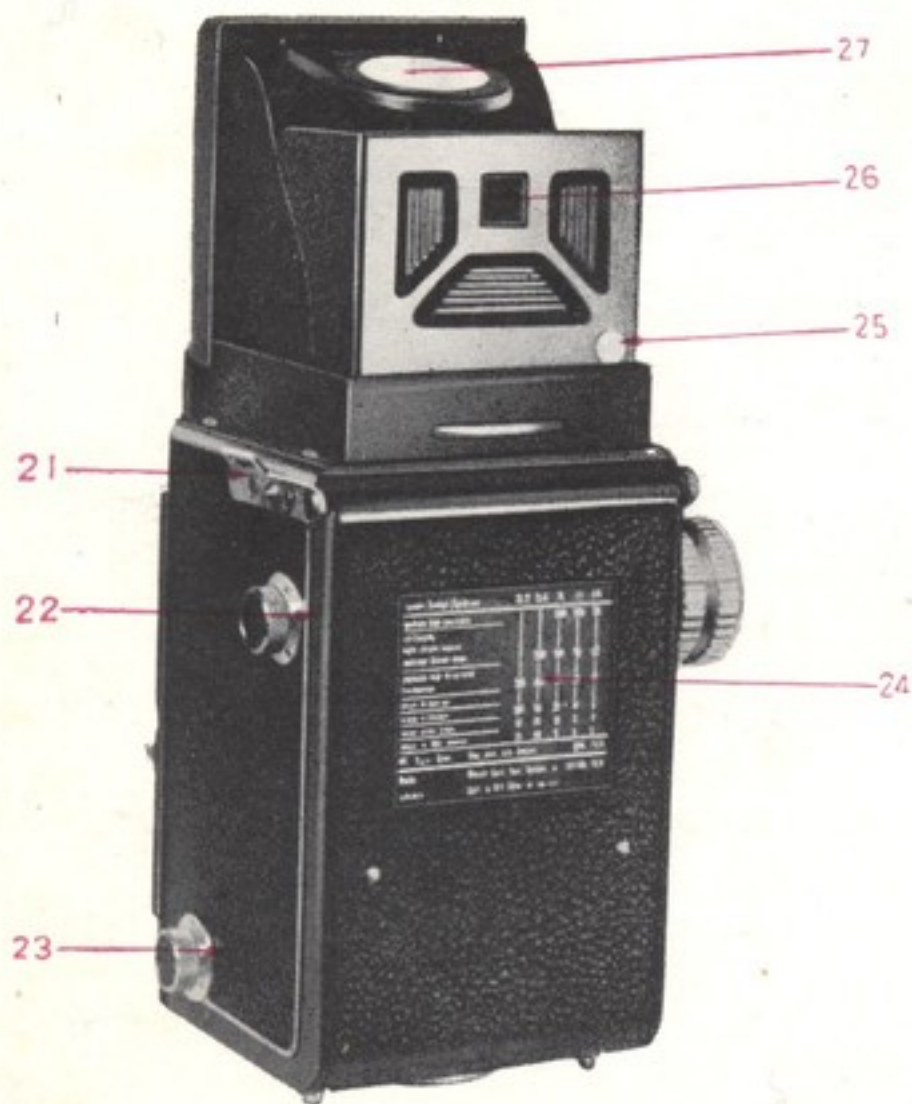
の
使い方

Z型前面



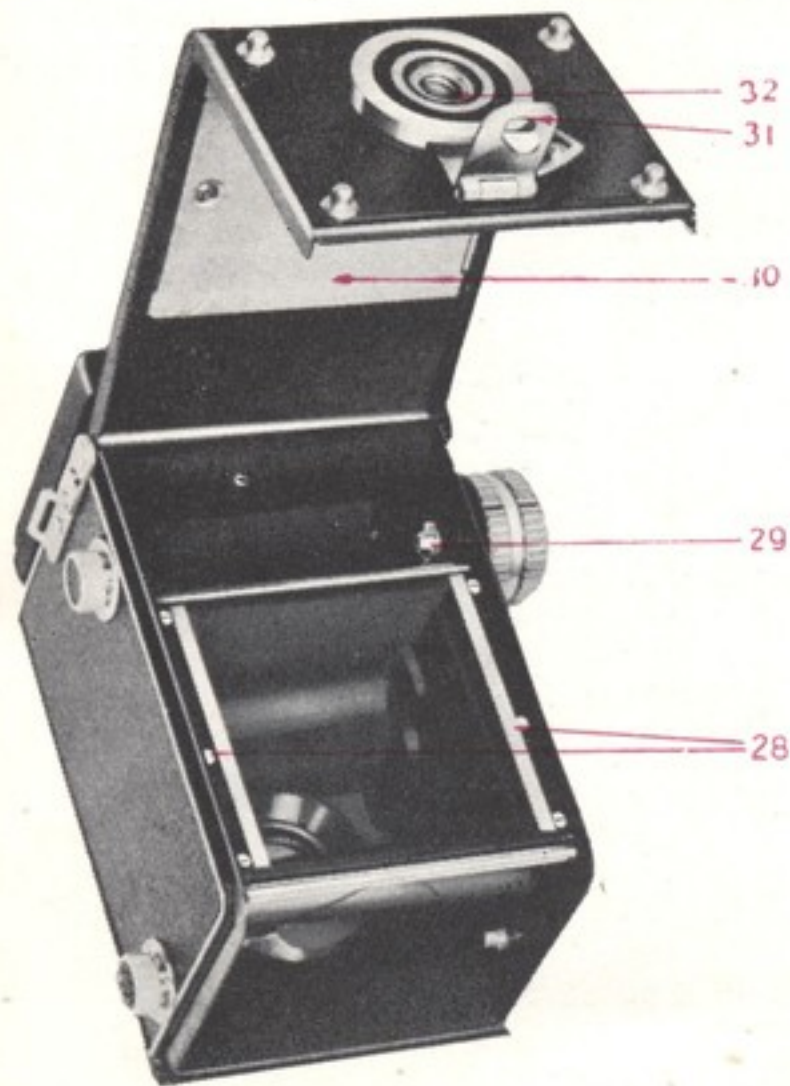
1. ファインダーフード
2. フィルム番号表示窓
3. フィルム捲取りノブ
4. フィルム移動ボタン
5. 焦点深度輪
6. S 番号表示ボタン
7. 距離目盛
8. 焦点調節ノブ
9. シヤッター速度調節レバー
10. シヤッター速度記号
11. ボデーリリース
12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 33. 33.

Z型、U型、YⅢ型共通



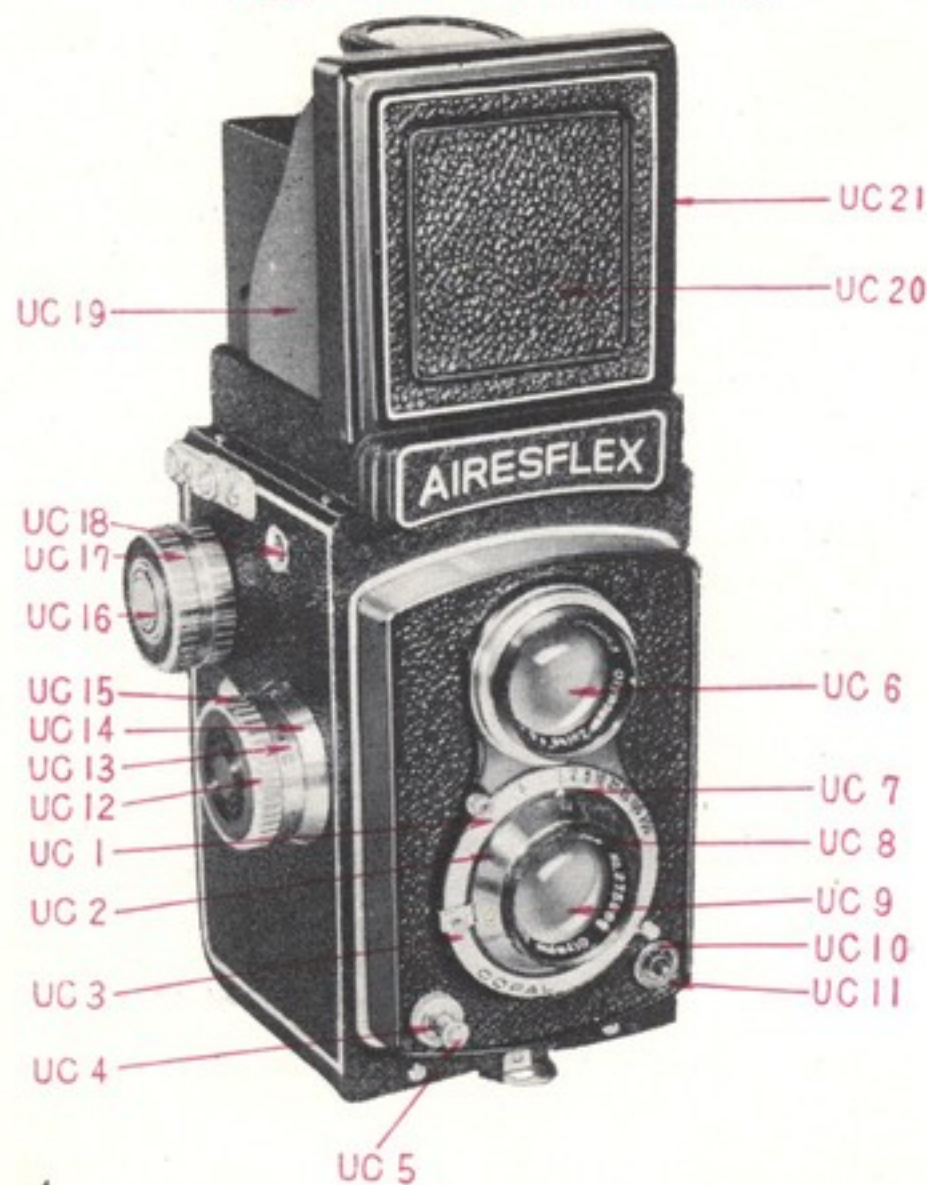
12. 裏蓋止金具
13. シャッター・レバー
14. シンクロプラグ接続点
15. 撮影用レンズ
16. 絞調節レバー
17. 絞記号
18. ファインダー・レンズ
19. 透視ファインダー開閉板
20. 透視ファインダー視野窓
21. 負革どめ
22. 捲取り用フィルム・スプール・ノップ

Z型、U型、YⅢ型共通



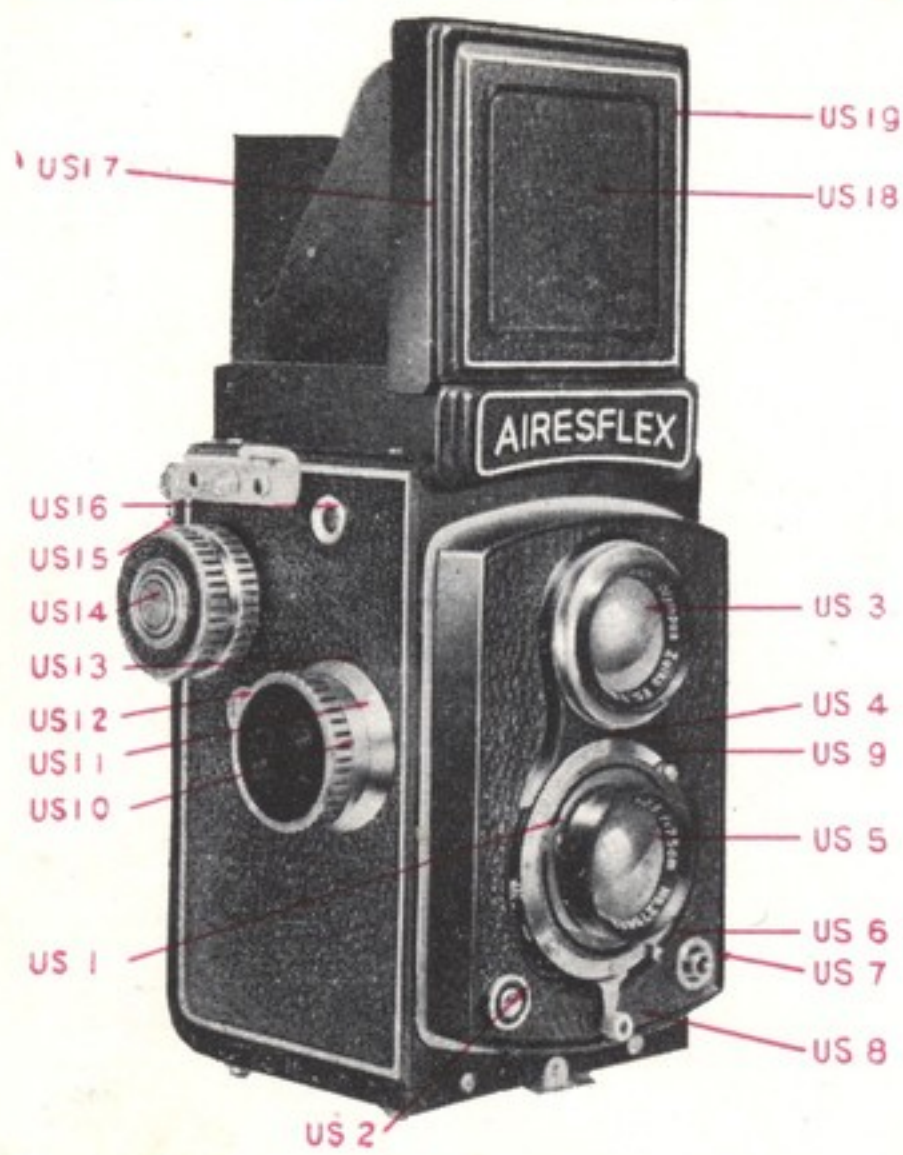
- 23. フィルム・スプール・ノップ
- 24. 露出表
- 25. 透視ファインダー開閉ボタン
- 26. 透視ファインダー視窓
- 27. 焦点拡大鏡
- 28. フィルム装填表識
- 29. 捲取り用フィルム・スプール・キイ
- 30. フィルム圧板
- 31. 裏蓋開閉レバー
- 32. 三脚穴
- 33. バヨネット

U型 コバル・シヤッター付



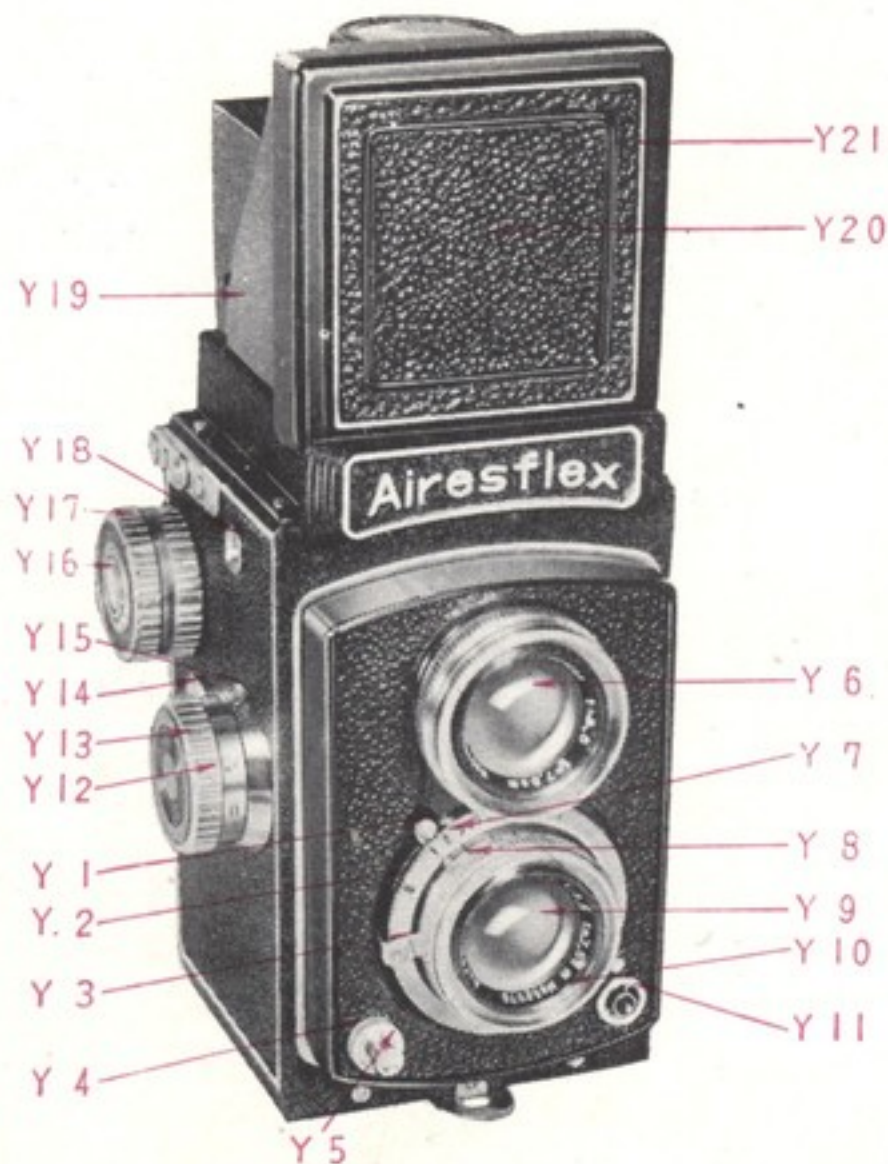
- UC 1. シヤッターセットレバー
- UC 2. シヤッター速度、絞調節表識
- UC 3. 絞調節レバー
- UC 4. ボデーリリース保護リング
- UC 5. ボデーリリース
- UC 6. ファインダーレンズ
- UC 7. シヤッター速度記号
- UC 8. 絞記号
- UC 9. 撮影用レンズ
- UC 10. セルフタイマー
- UC 11. シンクロプラグ接続点
- UC 12. 焦点調節ノブ
- UC 13. 距離目盛
- UC 14. 焦点深度表
- UC 15. S番号表示ボタン
- UC 16. フィルム移動ボタン
- UC 17. フィルム捲取りノブ
- UC 18. フィルム番号表示窓
- UC 19. ファインダーフード
- UC 20. 透視ファインダー開閉窓
- UC 21. 透視ファインダー視野窓

U型 セイコウシヤラピッド シヤッター付



- US 1. シヤッター速度表識
- US 2. レリーズ穴
- US 3. ファインダー用レンズ
- US 4. シヤッター速度記号
- US 5. 撮影用レンズ
- US 6. 絞調節レバー
- US 7. 針クロプラグ接続点
- US 8. シヤッターレバー
- US 9. シヤッター速度ダイヤル
- US 10. 焦点調節ノッブ
- US 11. 距離目盛
- US 12. S番号表示ボタン
- US 13. 焦点深度表
- US 14. フィルム移動ボタン
- US 15. フィルム捲取りノッブ
- US 16. フィルム番号表示窓
- US 17. ファインダーフード
- US 18. 透視ファインダー開閉窓
- US 19. 透視ファインダー視野窓

Y III 型



- Y 1. シャッターセットレバー
- Y 2. シャッター速度記号
- Y 3. 絞調節レバー
- Y 4. ボデーリリース保護リング
- Y 5. ボデーリリース
- Y 6. ファインダーレンズ
- Y 7. 絞、シャッター速度表識
- Y 8. 絞記号
- Y 9. 撮影用レンズ
- Y 10. セルフタイマー
- Y 11. シンクロプラグ接続点
- Y 12. 距離目盛
- Y 13. 焦点調節ノブ
- Y 14. S番号表示ボタン
- Y 15. 焦点深度表
- Y 16. フィルム移動ボタン
- Y 17. フィルム捲取りノブ
- Y 18. フィルム番号表示窓
- Y 19. ファインダーフード
- Y 20. 透視ファインダー開閉窓
- Y 21. 透視ファインダー視野窓

アイレス フレックスの機構

6×6cm 12枚撮り

レンズとシャッター

Z 型

撮影用レンズ——ニッコール Qc 1:3.5 $f=7.5\text{cm}$

ファインダー・レンズ——ビュー・ニッコール 1:3.2 $f=7.5\text{cm}$

両レンズとも日本光学製の、厳密な試験を経た、世界第一級全面コーテッドレンズです。

シャッターはセイコーシャ・ラピッド・シャッター

B 1 $\frac{1}{2}$ $\frac{1}{5}$ $\frac{1}{10}$ $\frac{1}{25}$ $\frac{1}{50}$ $\frac{1}{100}$ $\frac{1}{250}$ $\frac{1}{500}$ 秒

撮影用ファインダーレンズ“ズイコー” 1:3.5 $f=7.5\text{cm}$

セイコーシャ、ラピッド付Z型はニッコール付に次ぐ弊社が誇る第一級品です。

精工舎が精巧を誇る国産第一級シャッターです。

U 型

撮影用、ファインダーレンズ共オリムパス光学の誇るズイコー
1:3.5 f=7.5cm コーテッドレンズです。

シャッターはセイコウシャ ラピッド・シャッター

B 1 1/2 1/5 1/10 1/25 1/50 1/100 1/250 1/500 秒

若しくはコパル・シャッター、セルフタイマー付

B 1 1/2 1/5 1/10 1/25 1/50 1/100 1/200 秒

Y III 型

撮影用、ファインダーレンズ共エクセレシア 1:3.5 f=7.5cm

3枚構成コーテッドレンズです。

シャッターはウエスター・シャッター、セルフタイマー付

B 1 1/2 1/5 1/10 1/25 1/50 1/100 1/200 秒

ボデー

- ☆ 堅牢・精密なダイカスト・ボデーで、赤窓を有せずフィルムのリリーダー・ペーパー上の三角点を利用する自動捲上げ装置を完成しております。
- ☆ 裏蓋止装置も、カム式により、完全且つ堅牢です。
- ☆ 裏蓋は二重にして、完全遮光と補強が施されています。
- ☆ ファインダーフードは片手開きで開閉し、且つ透視ファインダーが装置されてあります。
- ☆ フード・フィルター・アタッチメントは、規格品を確実に着脱されます。
- ☆ 焦点拡大鏡は、使用者の視度により、容易に交換出来るようになっております。
- ☆ シンクロフラッシュ装置が内蔵されております。

アイレスフレックスは、その精度、外観に最高の工作を払って製作されており、完成したカメラは、厳密に一台ずつ細部の試験を行つたうえ、皆様方に提供されております。

アイレス フレックスの使い方

フィルムの装填と移動

フィルムの装填はカメラの裏蓋を開いて行います。

先ず裏蓋開閉レバーを0と記してある方へ移動しますと(第1図)裏蓋止金具がフリーとなり上部に起すことが出来るようになります(第2図)。

裏蓋を後方に押しますと(第3図)、裏蓋は開き(第4図)フィルム装填の準備が出来ます。

(第1図)

(第2図)

(第3図)

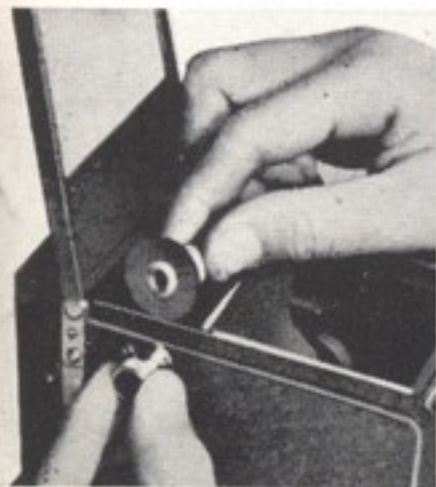
(第4図)



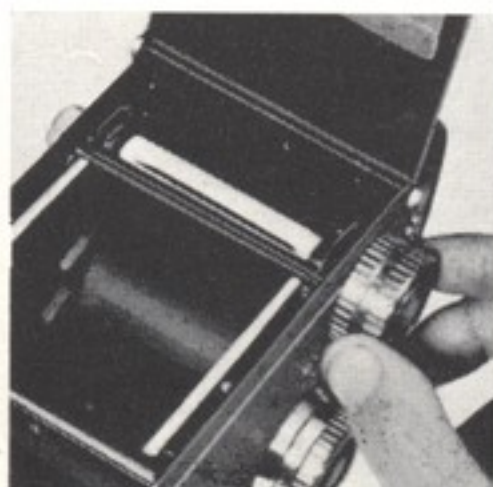
捲取り用フィルム・スプール・キイは、フィルム捲取りノップによつて廻転しますが、これに捲取り用フィルム・スプールの穴を合わせ他のスプールの一端を捲取り用フィルム・スプール・ノップをつまみ出して（第5図）これに合わせ、フィルム捲取りノップを廻わしてみても捲取り用スプールがこれに伴つて廻転するようにいたします（第6図）。

次に撮影すべきフィルムの装填もこれと同要領で第7図第8図の如く装填します。

（第5図）



（第6図）



（第7図）



（第8図）



そしてフィルム・リーダー・ペーパーを引き出し（第9図）、この先端を捲取り用スプールの溝にさしこみ（第10図）、フィルム捲取りノックを廻転しますと、リーダー・ペーパーは進行します。

そしてフィルム・リーダー・ペーパー上の三角点が出ましたら、このマークを**フィルム装填表識**に合わせます（第11図）。

これでフィルム装填は終わりましたから、裏蓋を閉じます（第12図）。そして裏蓋止金具をはめたのち、裏蓋開閉レバーをCの記号の方へ移動させますと、裏蓋は完全に閉じます。

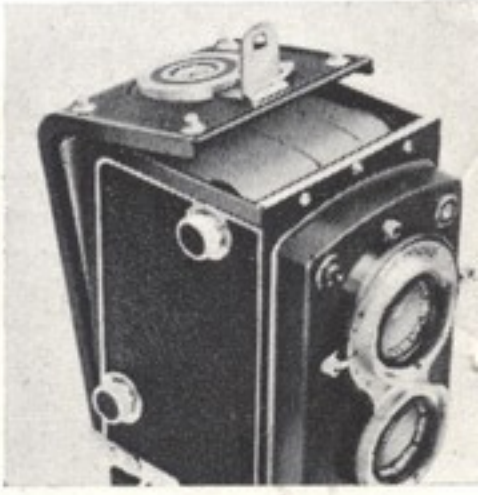
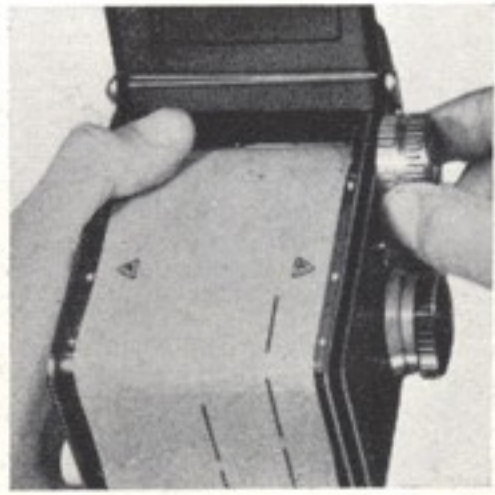
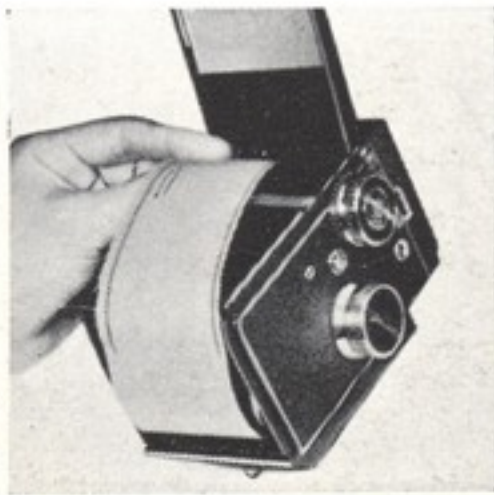
フィルム移動ボタンを押し乍らS番号表示ボタンを斜下方に引くとフィルム番号表

（第9図）

（第10図）

（第11図）

（第12図）

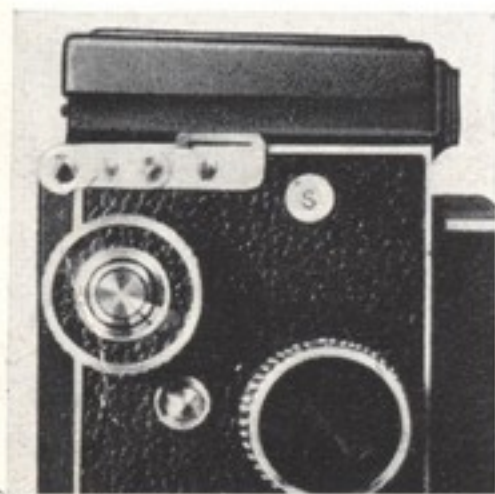


示窓にSと言う記号があらわれます(第13図)。このままフィルム捲取りノップを廻転しつづけると、やがてフィルム番号表示窓に1が出て、フィルム捲取りノップは自動的に停止します。

このとき、第一枚目の撮影すべきフィルムが、露光窓にあらわれ、撮影の準備が完了したこととなるのです(第14図)。

第一枚目の撮影が終わりましたら、フィルム移動ボタンを押しますと(第15図)、再びフィルム捲取りノップは廻転出来るようになり、自動的に止まるまで廻転します。このことを繰返せば、フィルム番号表示窓にそれぞれ2以下12までの番号があらわれ、撮影したフィルムは捲取りスプールに送られてゆくのです。

(第13図)



(第14図)



(第15図)



撮 影

ファインダー・フード は、その後端を軽く上部へ持ちあげると開きます（第16図）。反対に閉めるときは上部から下へ軽く押えれば一操作で畳みこむことができます（第17図）。

ファインダー焦点面を更に精密にみるため、この全面をみることの出来る大型の**焦点拡大鏡** が付属しています。これは透視ファインダー開閉板を軽く押すことにより、自動的に起すことができます（第18図）。

（第16図）



（第17図）



（第18図）



また動きの早い被写体や、眼の高さで撮影したいときは、透視ファインダー開閉板を、倒れてとまるまで指先で押しますと（第19図）、透視ファインダー視野窓が残りますから、透視ファインダー覗窓から、この視野窓をとおしてみれば、透視ファインダーとしての機構となります。

撮影はファインダー・フード中のファインダー焦点面にうつった画像をみながら、焦点調節ノブを前後に廻転させながら、正確な焦点を見出し、また構図も定めます。

（第19図）



絞、シャッター速度の調節、作動

Z 型

被写体の明るさによつて、絞やシャッター速度を調節するには、**絞調節レバー**により撮影用レンズの絞記号を（第20図）、またシャッター速度調節レバーによつて、シャッター速度記号を（第21図）それぞれ合わせます。

シャッターはワンセット式の**シャッター・レバー**によつて操作出来ます。セットするためには**レリーズ穴**の方向へひきます（第22図）。

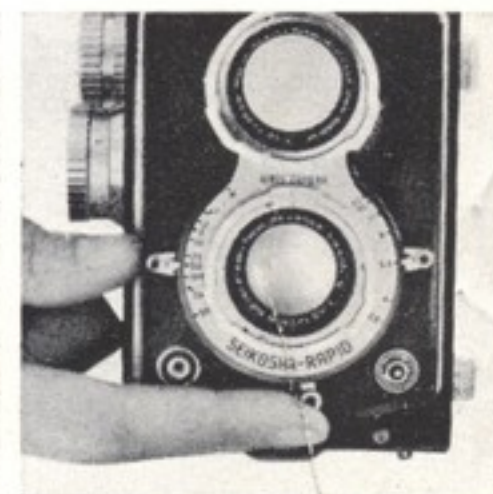
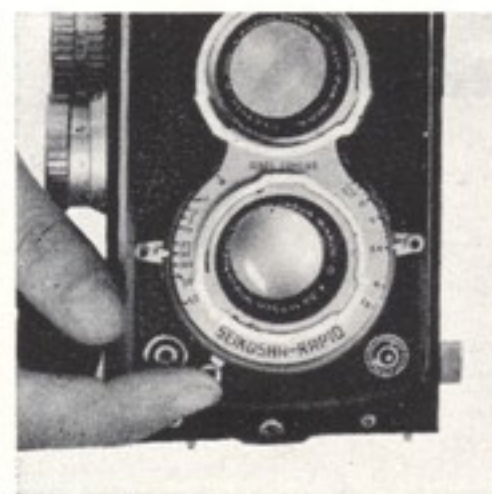
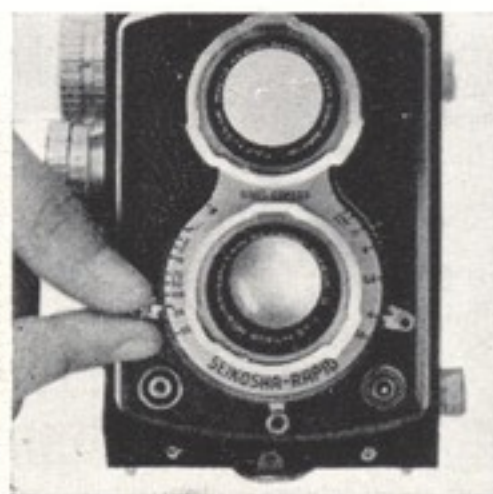
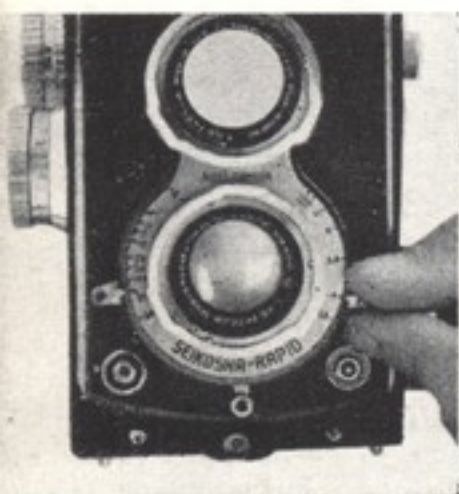
この同じレバーを逆の方向へひくと（第23図）、調節されたシャッター速度によりシャッターが作動します。

（第20図）

（第21図）

（第22図）

（第23図）



U型セイコウシヤ・ラピッド・シヤッター付

絞、シヤッター速度の調節を為すには、絞調節レバーに依り撮影用レンズの絞記号を(第20図A)、また、シヤッター速度記号ダイヤルを廻転させ(第21図A)シヤッター速度をそれぞれ合わせます。

シヤッターはZ型同様ワンセット式のシヤッター・レバーに依り操作出来ます。セットするにはリリース穴の方向へ引きます(第22図A)。

此のレバーを逆の方向へ引くと(第23図A)シヤッターは作動します。

(第20図A)



(第21図A)



(第22図A)



(第23図A)



コバル・シャッター付

絞、シャッター速度共、同一標識に合わせる様になつております。絞調節レバーを操作すれば、絞記号を記入したダイヤルも同時に廻転するようになつており、此の操作によつてシャッター速度標識に絞記号を合せるようになつております（第20図B）。

シャッター速度はコムパー・シャッター同様ダイヤルを廻転する事によつてシャッター速度を合わせる事が出来ます。（第21図B）

（第20図B）



（第21図B）



シャッター・セットは第22図 Bの如く行い、作動はボデー・リリースを押す事によつて為し得ます (第23図 B)。

セルフタイマーは第23図 B' の如くカメラの上方へ止まるまで引きセットする事が出来ます。

(第22図 B)



(第23図 B)



(第23図 B')



Y III 型

Y III 型の絞、シャッター速度の調節、シャッター・セット、作動、セルフタイマー、ボデーリリース等の操作方法は写真、第20図 C、第21図 C、第22図 C、第23図 C、第24図 Cの如く、前記コパル・シャッター付きと全く同様の操作に依つて之が目的を達成し得る事が出来ます。

(第24図 C)



(第20図 C)



(第21図 C)



(第22図 C)



(第23図 C)



ケーブル レリーズの使用法

ケーブルレリーズはZ型、U型のコムパー型シャッター付はレリーズ穴へネジ込み使用する事が出来、U型、Y III 型のプロンター型シャッター付はボデーレリーズ保護リングを外し、これへカブセ式ケーブル・レリーズヲネジ込む事によつてその目的を達する事が出来ます。

これで露出が済みますから、フィルム移動ボタンを押し（第19図参照）、フィルム捲取りノップを止まるまで廻転すれば、新らしいフィルム面が自動的に露光窓にあら

われ、またフィルム番号表示窓はその撮影枚数を示します。

このようにして12枚の撮影が終了しましたら、フィルム捲取りノップはフリーとなりますからこれを更に廻転せしめ、フィルムの終りの部分の裏紙も全部捲取りスプールに巻きとります。

そこでフィルムを装填したと同じ要領で、裏蓋を開き、フィルム捲取りスプールに捲取られた撮影済フィルムを取り出します。

これで一本のフィルムの撮影が完了したことになります。

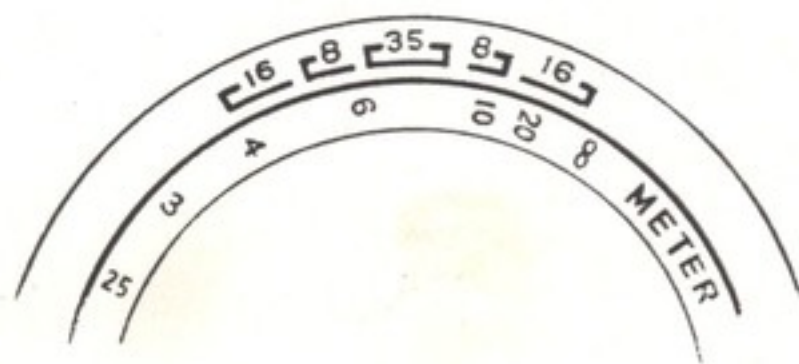
機構上の説明と御注意

☆ フィルムの取扱いについて——

フィルムの装填、或いは取り出しは、直射日光下を避けて、日蔭で行うようにして下さい。

☆ 焦点深度輪について——

距離目盛を中心として焦点深度輪が刻まれております。



これは距離目盛を中心として、両側に二つの同じ絞記号が刻まれております。

レンズには焦点深度といい、或る一カ所に距離目盛を合わせても、その前後の距離にも焦点が合います。この焦点の合う範囲を焦点深度といいます。

そしてこの焦点深度を一目瞭然とあらわしたものが、この焦点深度輪です。

これにより、絞が小さければ小さい程、焦点深度の深いこともわかります。

なお、アイレスフレックスのくわしい深度表を次頁に記載しておきますから御参照下さい。

(1:3.5 f=7.5cm 焦点深度表)

| F \ R | 0.9 | 1.0 | 1.1 | 1.3 | 1.5 | 2.0 | 2.5 | 3.0 | 4.0 | 5.0 | 10 | 20 | ∞ |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 3.5 | 0.87 | 0.96 | 1.06 | 1.24 | 1.42 | 1.86 | 2.28 | 2.70 | 3.48 | 4.22 | 7.30 | 11.50 | 26.85 |
| | 0.92 | 1.04 | 1.15 | 1.36 | 1.59 | 2.16 | 2.75 | 3.37 | 4.70 | 6.04 | 15.90 | 72.00 | ∞ |
| 4 | 0.86 | 0.96 | 1.05 | 1.23 | 1.41 | 1.84 | 2.26 | 2.66 | 3.42 | 4.13 | 7.05 | 10.80 | 23.40 |
| | 0.94 | 1.05 | 1.16 | 1.38 | 1.60 | 2.18 | 2.80 | 3.43 | 4.80 | 6.35 | 17.30 | 128. | ∞ |
| 5.6 | 0.85 | 0.94 | 1.03 | 1.21 | 1.38 | 1.79 | 2.18 | 2.55 | 3.24 | 3.86 | 6.30 | 9.20 | 16.70 |
| | 0.95 | 1.06 | 1.18 | 1.41 | 1.65 | 2.26 | 2.93 | 3.64 | 5.25 | 7.10 | 24.30 | ∞ | ∞ |
| 8 | 0.84 | 0.92 | 1.01 | 1.17 | 1.33 | 1.71 | 2.06 | 2.40 | 2.99 | 3.52 | 5.44 | 7.45 | 11.70 |
| | 0.97 | 1.09 | 1.21 | 1.46 | 1.72 | 2.40 | 3.18 | 4.10 | 6.03 | 8.61 | 62.60 | ∞ | ∞ |
| 11 | 0.82 | 0.90 | 0.95 | 1.13 | 1.28 | 1.62 | 1.94 | 2.23 | 2.74 | 3.18 | 4.66 | 6.05 | 8.50 |
| | 1.03 | 1.13 | 1.26 | 1.53 | 1.81 | 2.60 | 3.50 | 4.58 | 7.40 | 11.80 | ∞ | ∞ | ∞ |
| 16 | 0.77 | 0.84 | 0.92 | 1.05 | 1.17 | 1.46 | 1.71 | 1.93 | 2.29 | 2.70 | 3.50 | 4.25 | 5.85 |
| | 1.08 | 1.23 | 1.38 | 1.71 | 2.08 | 3.18 | 4.66 | 6.75 | 15.40 | 67.50 | ∞ | ∞ | ∞ |
| 22 | 0.67 | 0.82 | 0.88 | 1.01 | 1.12 | 1.38 | 1.59 | 1.85 | 2.00 | 2.34 | 3.06 | 3.60 | 4.25 |
| | 1.16 | 1.30 | 1.47 | 1.85 | 2.28 | 3.67 | 5.78 | 9.43 | 44.10 | ∞ | ∞ | ∞ | ∞ |
| | Rv | | | | | | | | | | | | |
| | Rh | | | | | | | | | | | | |

☆ バルブ露出について——

シャッター速度記号に B という記号がありますが、ここにシャッター速度調節レバーを合わせ、シャッター・レバーをセットして、バルブ露出を行います。

このシャッター・レバーを押している間だけシャッターは開いており、離すと閉まります。

この場合、三脚その他を使用して、カメラが動かぬようにすることが大切です。

また、もつと長い露出を行いたいときは、レリーズ穴に、ロッキング装置のあるケーブル・レリーズを使用します。

また、レリーズ穴を利用し、セルフタイマーを使用することも可能です。

☆ シャッターの保護について——

シャッターをセットして撮影をやめたとき、そのまま長くおくことは、シャッターのスプリングが強くかかつたまま保存することですから、シャッターの機構上、好ましくありません。

撮影をやめて帰宅するような場合は、必ずレンズにキャップをはめて、シャッターを作動させておいて下さい。

☆ フラッシュシンクロ撮影について——

アイレスフレックスには、精巧なフラッシュシンクロナイザーが内蔵されています。

それで閃光電球を利用し、夜間、室内等光量不足のときでも簡単に撮影が可能です。

専用のフラッシュ・ユニットのコードを、シンクロプラグ接続点へ差込めば、シャッターの作動と完全に同調いたします。



製造元 **アイレス寫真機製作所**

発売元 **東洋寫真機材株式会社**